

センター祭プログラム案内

生活療育支援科 川手浩一

8月に実行委員会が発足し、準備を進めてまいりました府中療育センター祭がいよいよ開催されます。移転後、2回目のセンター祭で、昨年新型コロナウイルス感染予防対策で、できなかった新しい建物のお披露目も含め、盛大に行いたいところでしたが、未だに新型コロナウイルス感染症の流行が終息せず、今年もイベント日は、感染予防対策を行った上での開催となります。また、入所と通所の御家族、地域の方やボランティアの方の参加は控え、入所、通所、通園（ご家族も）の利用者の方のみで実施することになりました。ただし、府中市内の3つの障害者施設の出店は、感染予防対策実施の下に、ご協力いただけることになりました。

イベント日は、10月22日（金曜日）、23日（土曜日）です。3密を避けるため、入所、通所、通園の各部門は、参加する時間を分け、更に入所部門は、フロアごとの参加とします。毎年楽しみにしている舞台発表は、事前録画をして、多目的ホールの大画面で、当日上映する予定です。外部出演団体は、3密を避ける対策を取りながら、22日（金曜日）は通所、通園の方を、23日（土曜日）は入所の方を対象に「スティールパンオーケストラ公演」を行います。また、今年も「府中けやきの森学園和太鼓部（VTR）」を上映します。外部団体の出店と食べ物コーナーは、テイクアウトのみとし、食べ物コーナーはデリバリー対応も取り入れます。ゲームコーナーは、会場実施の他、ディスクオルゴールの全病棟への訪問を行い、会場に来られない利用者の方にも楽しんでいただけるようにします。

センター祭に先立ち、今年の全体制作「ありがとうTOKYO2020」は、9月22日（木曜日）から始まっています。

感染予防対策を徹底した中での開催となりますが、利用者の皆様が、センター祭を楽しんで過ごせるよう、実行委員会メンバー一丸となって準備して参ります。

職員の皆様、様々な場面でご迷惑をかけることもあると思いますが、センター祭成功に向け、ご協力をよろしくお願いいたします。

また、開催後の報告を楽しみにしててください！

第13回(2021年)

今年も新型コロナウイルスでの開催となりました。
感染予防を第一に考えて最大限できる形のお祭りになりました。
ディスタンスはありますが 心と心でつながって
みんなで楽しいお祭りを楽しみましょう！



作者: 藤田 幸徳氏(入所者) 題: 「はばたけ」 第3回東京都障害者芸術大会 入賞作品

展示 令和3年10月20日(水)から11月2日(火)まで

イベント日

10月22日(金)、23日(土)10時から15時30分まで

※イベントはフロアごと、随時参加となります

府中療育センター祭



〒183-8553

東京都府中市武蔵台2-9-2

東京都立府中療育センター

電話 042(323)5115

FAX 042(322)6207

--*ホームページもご覧ください*-*-*

<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/fuchuryo/index.html>

ひだまり

都立府中療育センター新聞 第525号 発行日 令和3年9月30日

第26回 日本緩和医療学会学術大会 参加報告

小児科医長/緩和ケアチーム 小出彩香

今年の日本緩和医療学会は“緩和医療の今を考える-初心忘るべからず-”をテーマに、横浜を拠点としてハイブリッド形式で開催されました。

開催時期に当センターでも緩和ケアチームとして緩和ケアやケア方針のカンファレンスを重ねながら、ライブ配信やオンデマンドで参加しました。今回、医療従事者でない演者からの発表を聞く機会を得て、とても新鮮に感じられたのでご紹介します。

一つ目は能楽師の宝生和英さんの講演です。歌舞伎が感動や驚きを共有する”エンターテイメント”としての地位を確立しているのに対し、能楽は精神の動きを鎮めるような”アンビエント”が主体となっていると言います。能では亡霊が現れ、無念さを語りながら成仏していく内容が多いですが、死者が成仏していくことがメインテーマではなく、生きている者に気づきを与えるのが目的と話されました。緩和医療も終末期の患者さんの苦痛を取り除くことを目的としますが、生きている者にも気づきを残す手伝いをすると言えるのかもしれない。

また、能では同じ演目が繰り返し上演されながら、時代背景により目的が変わります。戦国時代には戦への恐怖を取り除く目的であったり、支配者のプロパガンダを目的としたり、比較的平穏な時代には軍事費を減らし、文化的な競争に使われるといった変化がありました。緩和医療もまた、情勢に左右されながらも、理想の形を模索し続けるものなのかもしれません。

二つ目はファンガードカンパニーの佐藤尚之さんの講演『情報“砂の一粒”時代に、「役立つ情報」をどう伝えていけばいいか』です。年間に流される情報は地球上の砂を全て集めた数だけの数があるそうです。その一粒を世の中に伝えることがどれだけ大変かといった内容です。緩和医療も伝わらなければ意味がありません。緩和に携わるスタッフへの3つのメッセージが示されました。①「医療者は特殊なマイノリティー」だと自覚する。②「正しく伝える」から「共感される」に変えていく。③「目の前の患者さん」こそがキーパーソンである。正しい知識を伝えれば行動してくれるはず、は思い込みであり、正論は人を傷つけることがある。発信する情報が多すぎると人は受け取れなくなるといった言葉は身にしみました。診療や倫理カンファレンスでも常に初心を忘れず、利用者さんの最善を考えた、分かりやすい、そして理性的かつ感情にも寄り添うコミュニケーションを大切にすると改めて感じました。



第36回 日本環境感染学会総会・学術集会 参加報告

小児科医長/ICT 古島わかな

9月19日(日曜日)、20日(月曜日)に日本環境感染学会総会・学術集会が名古屋で開催されました。日本環境感染学会は、感染症対策の指針や診療ガイド等、根拠に基づいた具体的な感染防止策をホームページ上でも発信しており、ICTが日頃からお世話になっている学会のひとつです。年1回の学術集会には感染対策に関わる多職種が参加し、例年7000人を超える、医師・看護師・臨床検査技師・薬剤師等で大賑わいとなります。かつてのICTメンバーと再開する楽しい機会でもあるのですが、コロナ禍の今年は、残念ながらWeb参加となりました。40以上の教育講演、15以上のシンポジウム等が、同時進行で14会場からライブ配信され、非常に盛り沢山な内容でした。ICTで手分けをし、私は新型コロナウイルス感染症の話題を中心に聴講しましたが、メディアでしばしばお見かけする有名な先生方のお話を直接伺うことができました。

新型コロナウイルス感染症対策の難しさの理由のひとつは、感染源のわかりにくさです。たいていの感染症は発熱のある時期に感染源となりますが、新型コロナウイルスは発症前から感染源となるうえ、発症しても症状が乏しい人が少なくありません。ワクチン接種により、発症予防効果や重症化予防効果はかなり期待できるようになりましたが、ワクチン接種後のブレークスルー感染による医療機関や福祉施設でのクラスター発生には、しっかり注意が必要であると強調されていました。新型コロナウイルスがひとたび集団生活の場に持ち込まれると、大変な修羅場となります。いっどこで誰が発症しても、他の職員・利用者が濃厚接触者とならないように、対策を継続することの大切さを痛感しました。

新型コロナウイルス感染症の広がり方がわかってくるにつれ、通常の会話でも飛沫が周囲にとび、エアロゾルが漂うことがわかってきました。当センターでは、以前からインフルエンザ流行期の全館マスク着用に取り組んできましたが、今後は、感染症流行期だけでなく平常時の標準予防策の考え方が変わってくるかもしれません。

パンデミックは新型コロナウイルス感染症だけではなくありません。最近、発熱時に新型コロナウイルスでさえなければ安心というような風潮もありますが、冬をむかえるこれからはインフルエンザも念頭におく必要があります。また、新型コロナウイルス感染症が落ちついた頃に、気づけば薬剤耐性菌が蔓延していたということがないように、各方面に気を配っていく必要があることも再認識しました。

ICTメンバーが学会で得た情報を持ち寄り、センターでのよりよい感染対策につなげていきたいと思っております。



行事食紹介

栄養科 仁田慶大

当院では、「お誕生日会」特別メニューを毎月第4水曜日の夕食時に実施しています。7月28日(水曜日)は「手作りスイカゼリー」を提供、スイカの種を丁寧に全て取り除き、心を込めて作りました。

メニュー

- 軟飯/全粥/パン粥
- 煮込みハンバーグ ラタトゥイユソースがけ
- 南瓜のポタージュ
- サラダ (カリフラワー、きゅうり)
- フルーツ 「手作りスイカゼリー」



①すいかの“まるむき”!?

②すいかの“輪切り”で作業をしやすく。

③そして、ひたすら種との闘い!



④ミキサーで滑らかに。

⑤湧き出る“アク”にも屈せず。

⑥冷やし固め、三角に切り分け完成!

「夏の定番“スイカ”を味わってもらいたい!」

ゼリー×等のコメント付きの方でもスイカを召し上がれるよう、スイカペーストにするなど工夫して、全員が楽しんで頂けるように提供しました。